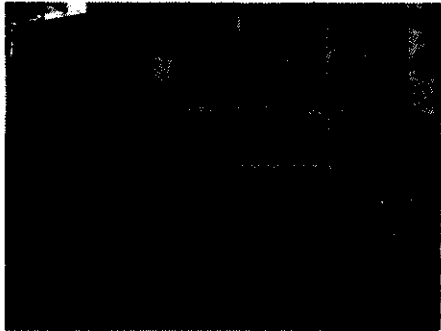


**ジェンダーと災害復興
2011年韓国調査**

山地久美子
松岡悦子(奈良女子大学)
山崎栄一(大分大学)

韓国の自然災害とジェンダー

ソウル市 江南 牛眠山 土砂崩れ 2011年7月



地球温暖化問題として、環境への議論が集中している
国防と防災の関係 男性中心の防災体制
外国人の増加 多文化共生と防災まちづくり

韓国中央安全管理委員会

委員長: 国務総理
幹事: 行政安全部長官
(委員)

大臣 15名
企画財政副長官・教育科学技術部長官・統一部長官・外交通商部長官・法務部長官・国防部長官・行政安全部長官・文化体育観光副長官・農林水産食品副長官・経済部長官・保健福祉家族副長官・環境部長官・労働部長官・女性部長官・国土海洋部長官

国家情報院長、国務総理室長、放送通信委員会委員長、国家危機管理室長、消防防災庁長、気象庁長

**韓国 国家安全管理基本計画
2010-2014年**

「安全な都市・事業推進」の概要において「子供が安全な都市、女性を含んだ社会的弱者を配慮した都市など地域別特性に合う多様な事業を通じて安全都市事業を推進」

社会的弱者としての記述であるが、災害弱者と受け取られる可能性がある。

女性を主体として位置づけることが必要

復興に向けてのまちづくり(山崎)

- 被害:600億ウォン 韓国社会からすると大きな金額
- 移転の話もあり、まちは存亡の危機に立たされた
- 農業以外に何らかの環境を活用できないか?
- 自然環境+防災 これを売りにして農業以外の活性化を図る
- 防災体験のまち 自主学习 勉強会 農村体験もしてもらう
- 需要としては、自主防災組織や小中学校を念頭
- 前の里長の復興コンセプトを今の里長が継承している

災害時におけるジェンダー(山崎)

- 里長の妻として、給食支援チームのリーダーをしていた
- 避難所では1階が男性 2階が女性であった
- 家事の仕事が増えたが、掃除が大きな仕事であった
男は細かい掃除をしない
- 里長の両親の家を頼るのは世間体が悪い(2日目から世話に)
- 2週間後に医者に来て、相談を受けて気分が楽になった
- 2週間後に子どもは親戚の家に行かせた(1ヶ月)
- 男女の役割は違う
男:軍や外部からの支援物資の受け取り
女:看護 調理 分配
- 婦人会の意義は大きい 子どもの世話 食事などの雑用
- 全体的に見て、女性への配慮はあったと思う

インジェ郡での聞き取りから(松岡)

- 災害復興と地域振興の接合
→ インジェを防災体験の町に
- 行政の支援だけでなく、一般市民からの寄付を募る → 被害の宣伝
- 避難所は 男女別の空間になる
- 災害が伝統や日常を見直すきっかけになる
民族衣装を着る習慣の復活など
- 避難所の中で、細々とした雑用を女性が行う

災害とリーダーシップ(松岡)

- 物資をどう配るか } リーダーの考えが重要
- 人をどう動かすか }
- 災害が起こる前からの準備の重要性
- 防災の専門家の養成、女性の防災分野への参画